

そよかぜだより

第62号
発行 2007.7.15
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

宇都宮・誤認逮捕事件口頭弁論の途中経過

市側「申請なければ知り得ず」

宇都宮誤認逮捕事件について
は前にこの紙面でお伝えし
ましたが、その後の裁判の経
過についてお知らせします。

重度の知的障害がある吉田
清さんが誤認逮捕事件に巻き
込まれたのは、宇都宮市の福
祉的支援が欠けていたのが原
因であるとして、吉田さん側
の弁護団が市の責任を問うて
いる裁判は、すでに8回の口
頭弁論が行われました。
弁護団は「なぜ福祉がかか

わる機会を逃したのか」を追
及していますが、これに対し
て市側の論旨は「生活保護も
知的障害者に対する支援策も
申請主義であり、本人から申
請がなかったので市は吉田さ
んのことを知る機会はなかつ
た」と反論しています。

しかし、暴力団関係の養父
に障害基礎年金や生活保護費
を搾取されながら同じアパー
トで暮らしていた別の障害者
が、養父の暴力に耐えかねて

逃げ出し新宿でホームレス支
援団体に保護されたとき、支
援団体は「ほかにも犠牲者が
いるようだ」と市に調査を依
頼しましたが、市は「調査の
結果横領、虐待の事実はつか
めなかった」として終わって
いました。
また、吉田さんが生活に困
って市に相談にいったことも
ありましたが、当時の担当職
員は「救護施設への入所も考
えたが、吉田さんが再度相談
に來なかつたのでそのままに
なっていた、その他のことは
記憶にない」と証言しました。
養父のもとで生活に苦慮し
た吉田さんは、廃品回収など

をしながら食べていましたが
重度の知的障害がある吉田さ
んには、回収してよいものと
他人の所有物を区別できず何
回も逮捕され、それが強盗事
件の誤認逮捕につながりまし
た。弁護団は「申請がないか
ら保護できない」とする市の
姿勢を追及する予定です。

そよかぜ各事業の 夏休みの予定

- ひばり園
8月11日～19日
- あおぞら
8月11日～19日
- つくしの家
8月11日～19日
- くれよん
8月15日～19日
- ほほえみ館
夏休みの予定はありません

はむら夏まつり
7月28日・29日
くれよん出店します。
フランクフルト・ビール
ラムネ
パチンコのとなり
ゲームセンターの前

ご協力ありがとうございました。 6月の募金 62,946円

(順不同) 19年4月～19年6月の合計 138,123円

内田 洋子 様	小林 幸一 様	渡辺 甫子 様	渡辺 甫子 様
込宮 正夫 様	中原 幸政 様	袴田 実 様	袴田 実 様
山下 暉枝 様	渡辺 時三 様	山田 隆章 様	山田 隆章 様
野々村 豊 様	加部 妙子 様	天満 喜代子 様	天満 喜代子 様
若松 時義 様	濱野 岬 様	竹内 照夫 様	竹内 照夫 様
帯刀 進 様	佐藤 佐夫 様	関村 理 様	関村 理 様
とまと美容室 様	宇津木 牧夫 様	関村 英希 様	関村 英希 様
平岡 和子 様	並木 由里子 様	本間 正彦 様	本間 正彦 様
藤野 安隆 様	大野 元雄 様	小沢 達子 様	小沢 達子 様
森田 勝 様	土屋 三枝子 様	関谷 博 様	関谷 博 様
松本 昭義 様	木村 宏 様	大野 素子 様	大野 素子 様
山崎 六雄 様	古沢 奈保美 様	田中 稔 様	田中 稔 様
清水 賢 様	橋本 亜紀子 様	阿部 郁子 様	阿部 郁子 様
清水 知子 様	石堂 孝一 様	渡辺 四郎 様	渡辺 四郎 様
吉野 満里子 様	榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	清水 キヨ子 様
長谷川キヌ子 様	松岡 竹子 様	尾又 恭子 様	尾又 恭子 様
角野 克子 様	角野 進 様	永岡 智恵子 様	永岡 智恵子 様
吉野 満里子 様	アークソノカワノ 様	第一住宅 様	第一住宅 様
田中 明子 様	平野 喜子 様	アバンソディックス 様	アバンソディックス 様
桜沢 喜作 様	小林 有子 様	関谷 達夫 様	関谷 達夫 様
高橋 典子 様	村野 理子 様	関谷 和子 様	関谷 和子 様
エイ・アイ 様	川崎 利男 様	平岡 知子 様	平岡 知子 様

匿名様(9,622円)

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん6月の売上げ
1,032,250円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします

新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

この収益は「つくしの家」の運営資金などになります。
6月は26,915tでした。金額は360,660円となりました。
みなさまのご協力ありがとうございました。

8月は第3日曜日19日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

時間の感覚がどこか違います

七夕飾りの一枚の短冊から考えること

毎年七月になると、ひばり園の片すみに笹の葉を一本立てて七夕飾りをします。みんなに短冊を一枚づつ渡して願い事を書いて吊るします。となりの保育園でも同じことをしているの、なんとなく子どもっぽい感じもしますが、利用者にとっては結構まじめな催しです。さすがに身体障害の人は遊び半分で書く人もいますが、知的障害や精神障害の人は遊び半分とか冗談などは苦手です。遊びや冗談は持てる能力をフルに使って真剣にするのではなく、能力のごく一部を使って軽い気持ちです。だから能力や心にゆとりがなければできません。

書いた笹の葉に吊るせば、本当に願いが叶うと信じているわけではありません。みんな大人ですから、それが遊びであることは分かっているはずですが、まじめに書くことしかできないのです。いつも、どんな場面でも真剣勝負に近いところで生きている人たちです。

そんな短冊の中から一つ紹介します。これこそ本人がいつもこのために悩み、苦しんでいることがそのまま出ていると思いきや、感じました。

「書いているもの書かれていたもの手続きがキチンと伝わりやすいように、いしんさんになりやすいように」

この人は統合失調症で知的障害ではありません。だから以心伝心という言葉も出てくるのです。統合失調症の人は概して無口な人が多いのですがこの人は反対で、頭の中に

出てきたいろんな思いをすべて口に出して人に聞いてもらわないと、居ても立ってもいられなくなるほど気持ちがイラだち不安定になるという症状です。そこでいまままで数え切れないほど何回もこの人の話を聞きました。しかし残念なことには病気のため話の筋道が通らず、混線状態となつて何の話をしているのか分からなくなります。本人も話しながらそのことを感じるらしく、いつも最後は「そのことを分かってほしいんです」とか、ときには「そのことを分かってもらわないと困るんです」と怒りを込めて強い口調でせまります。

こんなとき「でも、何のこ」とやらさっぱり分かりませんよ」と正直に言ったらとんでもないことになります。錯乱状態になることは分かっているのに「分かりました」とか「承知しました」と言っただけがようやく終わりです。分るの実は何も分かっているのな語り口から、人に伝えたい強い何かがあること

は分かりませんが、言葉にする支離滅裂になつて伝わりません。それが本人にもうすす分かってるので、その思いが短冊の文句です。

話がなぜ意味不明になるのか考えてみると、いま現在の話の中に子どもの時の会話などが出てきて、過去の自分といまの自分がごちゃごちゃに混ざり合ってしまうので意味が通らなくなるのです。統合失調症の人は、過去、現在、未来が一足とびで、その間に歴史の歩みはないといわれます。つまり時間に対する感覚がわれわれとはかなり違うということとです。

考えてみると時間というものは本当に不思議なものです。一秒前でも過去は過去、決してそこへ帰ることはできません。一秒後でも未来は未来、そこへ行くことは誰もできません。つまり私たちは過去と未来との間のほんの瞬間的な「いま」だけに存在しているのです。しかし私たちは日常生活において「いまの存在」を瞬間的な点のように意識していません。過去へも未来へもゆつたりとしたひろがり

を持ったものと考えています。だから精神的に安定していられるのです。もしこのように考えられなくなつたら精神状態はどうなるでしょうか。

統合失調症の人が時間について述べた言葉がよく引用される例として次のようなものがあります。

「時間がバラバラだ。無数のいまが、いま、いま、いま、と出てくるだけでつながりがない」、「少し前の自分と、いまの自分は、どちらが本当の自分かわからない」、「いましゃべっている私は自分ではない、T先生だ」

これらを見ると統合失調症の人は、時間に対する感覚が私たちの感覚と大きく違っています。時間を一瞬、一瞬の点のように意識して、その結果、自分がどこにいるのかわからず自己を見失っています。うつ病の人にも時間感覚の異常があるといわれています。最軽症の人まで含めてうつ病者すべてに共通する特徴は「とりかえしのつかぬことになつた」と強い自責感にさいなまれることです。自責感が強くなると自殺につながりま

す。いま政府が進めている自殺対策はいいかえればうつ病対策だといわれています。統合失調症の好発年齢は青年期で社会人になる入り口のところまで発病しますが、うつ病は中年以降の病気です。人生の最盛期に環境の大きな変化、転職とか転居などをきっかけにして発病します。いままでの自分をなんとか維持したいと思うけれど環境がそれを許さないのです。うつ病の人は現状から逃れるために過去に走つていまの自分を見失い、統合失調症の人は現状から逃れるために未来へ走つて自分を失うといわれています。

統合失調症とうつ病は精神病を代表する二大疾患です。この二つの病気が共に時間感覚の異常という点で一致しながら、過去と未来へ、正反対を志向することは、似た症状を持ちながら基本が違うことを意味しています。

いま正常に見える人でも、どこかに時間感覚の異常やズレを感じたら前兆とみて一刻も早く治療することです。身体の病気と同じく早期の治療が以後の経過を左右します。